【晉紀二十八】 起旃蒙作噩，盡柔兆闌茂，凡二年。

■東晉、●北魏 ▲後燕、諸国乱立のため、国として成立以前でも、特にこの巻では、国名として区別して表記を行った。(国会図書館デジタルコレクション・続国訳漢文大成・経子史部 第6巻 6-269p)

烈宗孝武皇帝中之上太元十年（乙酉，385年）

【長安は前秦・後秦・西燕の三つ巴】

前秦春，正月，秦王の堅は群臣に朝饗す，時に長安は饑え，人は相い食み，諸將は歸りて，肉を吐いて以て妻子を飼う。

西燕【慕容沖は西燕の皇帝即位】慕容沖は阿房に於いて皇帝に即位し，改元して更始とす。沖は自ら得る之志有り，賞罰は情に任ず。慕容盛は年十三，慕容柔に謂って曰く、

「夫れ十人之長は，亦た須らく才は九人に過ぎるべし，然る後に安きを得る。今中山王（慕容沖は前燕では中山王）の才は人に逮ばず，功は未だ成る有らず，而して驕汰なること已に甚し，殆んど濟り難き乎！」

後秦【後秦は關中の諸城攻略を優先】後秦王の萇は諸將を留めて新平（陝西省咸陽市彬州市、秦漢の漆県、新の漆治。漢代に鉄官。468年北魏・白土県。584年隋の新平県 1370年明の邠州直轄。1913年邠県。1964年彬県。2018年彬州市）を攻めしめ，自ら兵を引いて安定（現・慶陽市鎮原県）を撃ち，秦の安西將軍の勃海公の珍を擒とし，（6-270p）嶺北の諸城は悉く之に降る。

前秦 **西燕**【長安をめぐる前秦と西燕の攻防】甲寅（二月なら6日），秦王の堅は西燕主の沖と仇班渠（陝西省關中道長安県、現・西安市長安区）に於いて戦い，大いに之を破る。乙卯（二月なら7日），雀桑（長安）に於いて戦い，又た之を破る。甲子（二月なら16日），白渠（漢の時に白公が穿つ）に於いて戦い，秦兵は大いに敗れる。西燕の兵は秦王の堅を圍み，殿中將軍の鄧邁等は力戦して之を卻け，堅は乃ち免かるるを得る。壬申（二月なら24日），沖は尚書令の高蓋を遣わして夜長安を襲わしめ，其の南城に入り，左將軍の竇沖、前禁將軍の李辯等は撃ちて之を破り，斬首は八百級，其の屍を分けて而して之を食う。乙亥（二月なら27日），高蓋は兵を引いて渭北の諸壘を攻め，太子の宏は與に成貳壁に於いて戦い，大いに之を破り，斬首は三萬。

▲**翟魏前身**【後燕は着々東に広がる】燕の帶方王の佐（慕容氏で帶方王を称するのは注目、高句麗・百濟との関係がある可能性あり）は寧朔將軍の平規と共に薊を攻め，王永の兵は屢々敗る。二月，永は宋敞をして和龍及び薊城の宮室を焼か使めて，衆三萬を帥いて壺關に奔る。佐等は薊に入る。

▲**翟魏前身**慕容農は兵を引いて慕容麟に中山に於いて會し，與に共に翟真を攻める。麟、農は先ず數千騎を帥いて承營に至り，形勢を觀察す。翟真は望見し，兵を陳じて而して出る。諸將は退かんと欲し，農は曰く、

「丁零は勁勇ならざるに非ず，而れども翟真是懦弱にして，今精銳を簡びて，真の所在を望みて而して之を沖（続は衝）けば，真是走り，衆は必ず散らん矣，乃ち門に邀えて而して之に蹙れば，盡く殺す可き也。」驍騎將軍の慕容國をして百餘騎を帥いて之を沖か使め，真是走り，其の衆は門を争い，自ら相い蹈藉し，死者は太半となる。遂に承營の外郭を抜く。

前秦【苻堅は阿房城に入らず】癸未（三月なら6日），秦王の堅は西燕主の沖と（長安の）城西に於いて戦い，大いに之を破り，奔るを迫いて阿城（阿房宮の沖の本拠地）に至る。諸將は勝ちに乗りて入城するを請い，堅

は沖の掩^{おほ}う所と為るを恐れ、兵を引いて還る。

前秦 **「秦の益州刺史の王廣は蜀を出る」** 乙酉（三月なら8日）、秦の益州刺史の王廣は蜀人の江陽太守の李丕を以て益州刺史と為し、成都を守らしむ。己丑（三月なら12日）、廣は所部を帥いて奔りて隴西に還り、其の兄の秦州刺史の統に依り（統は無し）、蜀人の之に隨う者は三萬餘人。

■ **「劉牢之は枋頭進出」** 劉牢之は枋頭に至る。楊膺、姜讓（前年前卷にあり）の謀は洩れ、長樂公の丕は收めて之を殺す。牢之は之を聞き、盤桓（躊躇）して進まず。

前秦 秦の平原悼公の暉は數々西燕主の沖の敗る所と為り、秦王の堅は之を讓^まめて曰く、「汝は、吾之才子也、大衆を擁して白虜（鮮卑）の小兒と戦い、而して屢々敗れり、何ぞ生を用いて為さん！」

三月、暉は憤恚して自殺す。前禁將軍の李辯、都水使者の隴西の彭和正は長安の守らざるを恐れ、西州人を召集して韭園に屯す。堅は之を召し、至らず。

西燕 **「慕容沖と苻堅の長安攻防戦は続く」** 西燕主の沖は秦の高陽愍公の苻方を驪山（前卷前年七月にあり）に攻め、之を殺し、秦の尚書の韋鐘を執り、其の子の謙を以て馮翊太守と為し、三輔之民を招集せ使む。馮詡壘主の邵安民等は謙を責めて曰く、

「君は雍州の望族なり、今乃ち賊に従いて、之と與に不忠不義を為す、何の面目ありてか以て世に行う乎？」

謙は以て鐘に告げ、鐘は自殺し、謙は（東晋に）來奔す。秦の左將軍の苟池、右將軍の俱石子は西燕主の沖と驪山に戦い、兵は敗れる。西燕の將軍の慕容永（386-394 第7代西燕皇帝）は苟池を斬り、俱石子は鄴に奔る。永は、魔の弟の運之孫、(6-271p) 石子は、難（104 卷太元三年りあり）之弟也。秦王の堅は領軍將軍の楊定を遣わして沖を撃ち、大いに之を破り、鮮卑の萬餘人を虜として而して還り、悉く之を坑にす。定は、佛奴之孫、堅之婿也。

■ 滎陽人の鄭變は郡を以て來降す。

【鄴を巡る前秦・後燕・東晋の三つ巴】

▲ **「後燕は振るわずとの噂」** 燕王の垂は鄴を攻め、久しく下らず、將に北に冀州に詣らんとし、乃ち撫軍大將軍の麟に命じて信都に屯せしめ、樂浪王の溫（慕容氏で樂浪王を称するも注目）をして中山に屯せしめ、驃騎大將軍の農を召して鄴に還らしむ。是に於いて遠近は之を聞き、燕を以て振るわずと為し、頗る去就を懐く。

▲ 農は高邑（直隸省保定道柏郷縣、現・河北省邢台市柏郷縣）に至り、從事中郎の眭邃^{すいすい}を遣わして近く出でしめ、期に違ひて還らず。長史の張攀^{はん}は農に言つて曰く、

「邃は目下（現在）の參佐なり、敢えて欺罔^{ぎもつ}（欺く）して還らず、請う軍を回らして之を計（統は討）らん。」農は應じず、敕して假版を備え、邃を以て高陽太守と為し、參佐の家の趙北（趙国以北）に在る者は、悉く假署（假版を以て官に署置す、未だ嘗て燕王垂に白さざる也）して遣り歸す。凡そ擧げて太守に補するは三人、長史には二十餘人、退きて攀に謂つて曰く、

「君の所見は殊に誤まる、當に今豈に自ら相い魚肉す可けんや！吾が北に還るを俟ちて、邃等は自ら當に道左に迎えるべし、君は但だ之を觀るべし。」

▲ **「翟魏前身」** **「樂浪王の溫は中山を守る」** 樂浪王の溫は中山に在り、兵力は甚だ弱く、丁零は四ほう^{しほう}に布き、諸城に分かれて據る。溫は諸將に謂つて曰く、

「^{おも}うに吾之衆は、攻めて則ち足らず、守りて則ち餘り有り。驃騎、撫軍、首尾は兵を連ね、^{かなら}會ず須く賊を滅すべし、但だ應に糧を衆め兵を厲ぎ以て時を俟つ耳。」

是に於いて舊を撫し新しきを招き、農桑を勸課して、民の歸附する者は相い繼ぎ、郡縣の壁壘は争いて軍糧を送り、倉庫は充ち溢れる。翟真是夜中山を襲い、温は撃ちて之を破り、是より敢えて復た至らず。温は乃ち兵一萬を遣わして糧を運び以て垂に餉り、且つ中山の宮室を營む。(垂を迎えて都とさせる為)

▲■ **[晉の劉牢之が後燕を攻める]** 劉牢之は燕の黎陽太守の劉撫を孫就柵(孫就が黎陽の界に立て屯した)に於いて攻め、燕王の垂は慕容農を留めて鄴の圍みを守らしめ、自ら兵を引いて之を救う。秦の長樂公の丕は之を聞き、兵を出して虚に乗り夜燕の營を襲い、農は撃ちて之を敗る。劉牢之は垂と戦い、勝たず、退きて黎陽に屯す。垂は復た鄴に還る。

後涼前身 **[呂光は鳩摩羅什の助言で東帰]** 呂光は龜茲の饒樂なるを以て、留まりて之に居らんと欲す。天竺の沙門の鳩摩羅什(クマラジーヴァ、344-413年)は光に謂って曰く、

「此は凶亡之地なり、留まるに足りざる也。將軍は但だ東に歸り、中道に自ら福地の居る可き有り。」
光は乃ち大いに將士を饗し、進止を議し、衆は皆な還らんと欲す。乃ち駝(駱駝)二萬餘頭を以て外國の珍寶奇玩を載せ、駿馬萬餘匹を驅りて而して還る。

▲■ **[東晉と前秦は相呼応せず、垂は撃破する]** 夏、四月、劉牢之は兵を進めて鄴に至る。燕王の垂は逆えて戦い而して敗れる。遂に圍みを撤し、退きて新城に屯す。卯(8日)、新城より北に遁げる。牢之は秦の長樂公の丕に告げずして、即ち兵を引いて之を追う。丕は之を聞き、兵を發して繼ぎて進む。庚申(13日)、牢之は追いて董唐淵(河南省河北道臨漳県、現・河北省邯鄲市臨漳県)に於いて垂に及ぶ。垂は曰く、「秦、晉瓦合、(瓦の様に脆い)して相い待ちて強(続は彊)と為す。一たび勝てば則ち俱に豪にして、一たび失えば則ち俱に潰え、同心に非ざる也。今兩軍は相い繼いで、勢いは既に未だ合わず、宜しく急に之を撃つべし。」

牢之の軍は疾く趨りて二百里、五橋澤(河南省河北道臨漳県の北、現・河北省邯鄲市臨漳県)に至り、燕の輜重を争う。垂は邀撃し、大いに之を破る。斬首は數千級。牢之は單馬にて走り、會々秦の救いは至り、免かるるを得たり。

▲燕の冠軍將軍の宜都王の鳳は戦う毎に、奮いて身を顧みず。前後大小二百五十七戦、未だ嘗て功無し。垂は之を戒めて曰く、

「今大業は甬めて濟る、汝は當に先ず自ら愛すべし！」
車騎將軍の德之副と為ら使め、以て其の鋭を抑える。

前秦 **[前秦の苻丕は晉の穀に就く]** 鄴中の饑えは甚だしく、秦の長樂公の丕は衆を帥いて晉の穀に枋頭に就く。劉牢之は入りて鄴城に屯し、亡散を収集し、兵は復た少しく振う。軍敗れるに坐して、征(続は徵)して還される。

前秦 ▲ **[燕秦の戦乱で飢え激しく、垂は中山に向かう]** 燕、秦は相い持ちて年を経て、幽、冀は大いに饑え、人は相い食み、邑落は蕭條たり。燕之軍士は多く餓死し、燕王の垂は民に養蠶を禁じ、桑椹(桑の実)を以て軍糧と為す。垂は將に北に中山に趣かんとし、驃騎大將軍の農を以て前驅と為し、前に假授する所の吏の眭邃等は皆な來たりて迎候し、上下は初めの如く、李攀(先には張攀に作りが不明。テキストは「李」のみ)は乃ち農之智略に服す。

■ **謝安は自ら秦王堅の救出に向かわんとす** 會稽王の道子は好みて專權し、復た奸(続は姦) 諂たる者を構扇する所と為り、太保の安と隙有り。安は之を避けるを欲す。會々秦王の堅は來たりて救いを求め、安は乃ち自ら將して之を救わんと請う。壬戌(15日)、出でて廣陵之步丘(江蘇省淮陽道江都縣・邵伯縣、揚州市広陵區・江都區、邵伯湖は揚州市内)に鎮し、壘を築いて新城と曰い而して之に居る。

■ 蜀郡太守の任權は攻めて成都を抜き、秦の益州刺史の李丕を斬り、復た益州を取る。(103 卷寧康元年に秦は益州を取る)

【前秦の苻堅は遂に姚萇に殺される】

後秦 **飢えた新平の苟輔は城を出て皆坑せらる** 新平(後秦は前年より攻略中)は糧竭き矢は盡き、外に救いは至らず。後秦王の萇は人をして苟輔に謂って曰わ使む、

「吾は方に義を以て天下を取る、豈に忠臣を仇(続は讐)せん邪！卿は但だ城中之人を帥いて長安に還れ、吾は正に此の城を得るを欲す耳。」

輔は以て然りと為し、民五千口を帥いて城を出る。萇は圍みて而して之を坑し、男女は遺る無く、獨り馮傑(前巻に見える)の子の終は脱するを得、長安に奔る。秦王の堅は輔等に官爵を追贈し、皆な諡して節愍侯と曰う。終を以て新平太守と為す。

後燕 **翟魏前身** **翟真是鮮于乞に殺される** 翟真是承營より徙りて行唐(直隸省保定道行唐縣、現・河北省石家莊市行唐縣、苻洛は行唐公)に屯し、真の司馬の鮮于乞は真及び諸々の翟を殺し、自ら立ちて趙王と為す。營人は共に乞を殺し、真の從弟の成を立てて主と為す。其の衆は多く燕に降る。

西燕 **慕容沖は長安を攻めて、苻堅は血まみれ、策も失敗** 五月、西燕主の沖は長安を攻め、秦王の堅は身自ら督戰し、飛矢は體に滿ち、流血は淋漓たり。沖は兵を縦ちて暴掠し、關中の士民は流散し、道路は斷絶し、千里は煙(炊飯の煙)無し。堡壁は三十餘有り、平遠將軍の趙叡を推して主と為し、相い與に結盟して、難を冒して兵糧を遣りて堅を助け、多く西燕の兵の殺す所と為る。堅は之に謂って曰く、

「聞く、來たる者は率ね善く達せずと、此れ誠に忠臣之義なり。(6-273p) 然れども今寇難は殷繁(殷盛繁多)にして、一人之力の能く濟う所に非ざる也。徒らに相い隨いて虎口に入るは、何の益あるや？汝曹は宜しく國の為に自愛し、糧を畜え兵を厲ぎ、以て天の時を俟ち、庶幾わくは善く否に終わらず、時有りて而して泰ならん也！」

三輔之民の沖の略する所と為る者は、人を遣わして密かに堅に告げ、

「請う、兵を遣わして沖を攻め、火を縦ちて内應を為さんと欲す。」

堅は曰く、

「甚だ諸卿の忠誠を哀れまん！然るに吾が猛士は虎豹の如く、利兵は霜雪の如くなるも、烏合之虜に困らせられ、豈に天に非らず乎？恐らくは徒らに諸卿をして坐して自(続は致)ら夷滅させ使めん、吾は忍びざる也！」

其の人は固く請いて已まず、乃ち七百騎を遣わして之に赴かしむ。沖の營の火を縦つ者は、反りて風火の燒く所と為り、其の免かるるを得る者は什に一二、堅は祭りて而して之を哭す。

前秦 **苻堅は讖書を以て五將山に遷る、岐山は岐阜の語源** 衛將軍の楊定は沖と城西に戦い、沖の擒とする所と為る。定は、秦之驍將也。堅は大いに懼れ、讖書を以て云う、

「帝は五將に出て久しく長きを得る」,(五將山は岐山、陝西省岐山県の北東の山。西周始王の武王の3代前の祖の古公亶父が移り、武王の父文王が豊京に都を移すまでの間、この山の南麓が都とされた。織田信長が岐阜を名付けたのもこれ)

乃ち太子の宏を留めて長安を守らしめ、之に謂って曰く、

「天は其れ或る者は予を導いて外に出でしめんと欲す。汝は善く城を守り、賊と利を争う勿れ、吾は當に隴に出でて兵を收め糧を運び以て汝に給さん。」

遂に騎數百を帥いて張夫人及び中山公の誅、二女の寶、錦と出でて五將山(陝西省關中道岐山県、現・宝鸡市岐山県)に奔り、州郡に宣告し、期するに孟冬を以て長安を救わんとす。堅は過ぎて韭園を襲い、李辯は(西)燕に奔り、彭和正は^は慚じ、自殺す。

■閏月(元嘉曆六月)、廣州刺史の羅友を以て益州刺史と為し、成都に鎮せしむ。

▲翟魏前身 高句麗 [高句麗が遼東・玄菟を占領] 庚戌(4日)、燕王の垂は常山に至り、翟成を行唐に圍む。帶方王の佐に命じて龍城に鎮せしむ。六月(元嘉曆七月)、高句麗は遼東を寇し、佐は司馬の郝景を遣わして兵を將いて之を救わしめ、高句麗の敗る所と為り、高句麗は遂に遼東、玄菟を陥とす。

西秦 ▲ [前秦太子宏は長安逃亡し瓦解、西燕入城] 秦の太子の宏は長安を守る能わず、數千騎を將いて母、妻、宗室と與に西に下辨に奔る。百官は逃散し、司隸校尉の權翼(元々姚襄の屬僚なり)等の數百人は後秦に奔る。西燕主の冲は入りて長安に據り、兵を縦ちて大いに掠め、死者は勝^{かぞ}て計う可からず。

■秋、七月(元嘉曆八月)、^{ひでり}旱して、饑え、井は皆な竭く。

後秦 後秦王の萇は故縣(漢の安定郡に安定県あり、これをいう。甘肅省涇原道鎮原県、現・慶陽市鎮原県)より新平に如く。

前秦 後秦 [苻堅は捕らえられて新平に幽閉、太子宏は氏に入る] 秦王の堅は五將山に至り、後秦王の萇は驍騎將軍の吳忠を遣わして騎を帥いて之を圍ましむ。秦兵は皆な散走し、獨り侍御十數人は側に在り、堅は神色自若として、坐して而して之を待ち、宰人を召して食を進めしむ。俄に而して忠は至り、之を執りて、送りて新平に詣し、別室に幽(閉)す。太子の宏は下辨に至り、南秦州刺史の楊璧(氏種、苻堅が仇地を取り秦の刺史となる)は之を拒む。璧の妻は、堅之女の順陽公主也、其の夫を棄てて宏に従う。■宏は武都に奔り、氏の豪強の熙に投じ、道を假りて來奔し、詔して之を江州に處す。(6-274p)

後秦 ■ [苻丕は再度鄴城に入る] 長樂公の丕は衆三萬を帥いて枋頭より將に鄴城に歸らんとす、龍驤將軍の檀玄(晉の將軍)は之を撃ち、谷口(枋頭の西、河南省河北道淇県、鶴壁市淇県)に戦い、玄の兵は敗れ、丕は復た鄴城に入る。

▲翟魏前身 [餘巖は反し、翟成は殺され、行唐は坑せらる] 燕の建節將軍の餘巖は叛し、武邑より北に幽州に趣く。燕王の垂は使いを馳せて幽州の將の平規に敕して曰く、

「固く守りて戦う勿れ、吾が丁零を破るを俟ちて自ら之を討たん。」

規は出でて戦い、巖の敗る所と為る。巖は薊に入り、千餘戸を掠め而して去り、遂に令支に據る。癸酉(28日)、翟成の長史の鮮于得は成を斬りて出でて降る。垂は行唐を屠^{ほふ}り、盡く成の衆を坑す。

■太保の安は疾有り、還るを求め、詔して之を許す。八月(元嘉曆八月閏月)、安は建康に至る。

■ [謝安の死去] 甲午(19日)、大赦す。丁酉(22日)、建昌の文靖公の謝安は薨^はず(廣州の歩丘にあり)。詔して殊禮を加えること、大司馬の溫の故事の如し。庚子(25日)、司徒の琅邪王の道子を以て揚州刺史を領し、尚書を録し、中外の諸軍事を都督せしめ、尚書令の謝石を以て衛將軍と為す。

前秦 **後秦** **「姚萇は苻堅に讓位を迫るもついに縊り殺す」** 後秦王の萇は（人をして）傳國の璽を秦王の堅に求め使めて曰く、

「萇は次に歴數に應ず、以て惠と為す可し。」

堅は目を瞋らせて之を叱りて曰く、

「小羌は敢えて天子に逼る、五胡の次序は、(籤文に) 汝の羌の名は無し。璽は已に晉に送れり、得る可からざる也！」

萇は復た右司馬の尹緯を遣わして堅を説かしめ、禪代(禪讓)を為さんと求める、堅は曰く、

「禪代は、聖賢之事なり。姚萇は叛賊なり、何ぞ之を為すを得るや！」

堅は緯と語り、緯に問う、

「朕は朝に在りては何の官なり？」

緯は曰く、

「尚書令史なり」。

堅は歎じて曰く、

「卿は、王景略の儔と為り、宰相の才也、而るに朕は卿を知らず、宜なるかな其の亡ぶ也！」

堅は自ら以えらく平生萇を遇するに恩有りと、尤も之を忿り、數々萇を罵り死を求め、張夫人に謂って曰く、

「豈に羌奴をして吾が兒を辱か令む可けんや。」

乃ち先ず寶、錦を殺す。辛丑(26日)、萇は人を遣わして堅(年は48)を新平の佛寺で縊らしめ、張夫人、中山公の誅は皆な自殺し、後秦の將士は皆な之が為に哀慟す。萇は其の名(悪名)を隠さんと欲し、堅に諡して壯烈天王と曰う。

前秦 **「數々戦い、數々勝てば、亡びる」** 臣光曰く、論者は皆な以為らく秦王の堅之亡ぶるは、慕容垂、姚萇を殺さざるに由るが故也と、臣は獨り以為らく然らずと。許劭は魏の武帝を、『治世之能臣、亂世之奸雄』と謂う(58卷漢靈帝中平元年にあり)。堅をして國を治めるに其の道を失うこと無から使めば、則ち垂、萇は皆な秦之能臣也、烏んぞ能く亂を為さん哉！堅之亡びし所以は、驟々勝ちて而して驕れるに由るが故也。魏の文侯は李克に吳之亡びし所以を問い、對えて曰く、

「數々戦い數々勝てり。」

文侯は曰く、

「數々戦い數々勝つは、國之福也、何の故か亡びん？」

對えて曰く、

「數々戦えば則ち民は疲れ、(6-275p) 數々勝てば則ち主は驕り、驕主を以て疲民を御するは、未だ亡びざる者有らざる也。」

秦王の堅は之に似たり矣。

【苻丕は皇帝即位、拓跋珪も自立】

前秦 **「苻丕は晉陽にて皇帝即位」** 長樂公の丕(字は永叔、堅の諸長子)は鄴に在り、將に西に長安に赴かんとし、幽州刺史の王永は(今年幽州より奔る)壺關(現・山西省長治市壺関県)に在り、遣使して丕を招き、丕は乃ち鄴中の男女六萬餘口を帥いて西に潞川(山西省冀寧道潞城縣、現・長治市潞城区)に如き、驃騎將軍の張蚝、并州刺史の王騰は之を迎えて晉陽(山西省太原市晋源區、現・太原市晋源區)に入る。王永は平州刺史の苻冲を留めて

壺關を守らしめ、自ら騎一萬を帥いて丕に晉陽にて會う。丕（字は永叔、堅の庶長子）は始めて長安の守られず、堅の已に死せるを知り、乃ち喪を發して、皇帝に即位す。堅を追諡して宣昭皇帝と曰い、廟號を世祖とし、大赦し、改元して大安とす。

▲ **[苻丕を追い出した慕容垂は、龍城・歷口など周辺討伐]** 燕主の垂は魯王の和を以て南中郎將と為し、鄴に鎮ぜしむ。慕容農を遣わして蠡螭塞に出で、凡城を歴て、龍城に趣き、兵を會して餘巖を討たしめ、慕容麟、慕容隆は信都（現・邢台市信都区）より勃海、清河に徇らしむ。麟は勃海太守の封懿を撃ち、之を執り、因りて歷口（山東省済南道歴城県、現・済南市歴城区）に屯す。懿は、放（封放、99卷にあり）之子也。

[拓跋珪は劉頭眷を殺した劉顯から逃亡する] 鮮卑の劉頭眷は賀蘭部（鮮卑の一部族）を善無（山西省雁門道右玉県、現・朔州市右玉県）に撃破し、又た柔然を意親山に破る。頭眷の子の羅辰は頭眷に言つて曰く、「比來兵は行きて、向かう所敵無し。然れども心腹之疾は、願はくは早く之を圖れ！」

頭眷は曰く、

「誰を也？」

羅辰は曰く、

「從兄の顯なり、(殘) 忍な人也、必ず將に亂を為さん。」

頭眷は聽かず。顯は、庫仁之子也。之^{しほらく}頃して、顯は果たして頭眷を殺して自ら立つ。又た將に拓跋珪（劉庫仁を頼ること104卷にあり）を殺さんとし、顯の弟の亢泥の妻は、珪之姑也、以て珪之母の賀氏に告げる。顯の謀主の梁六眷は、代王之什翼犍之甥也、亦た其の部人の穆崇、奚牧をして密かに珪に告げ使め、且つ其の愛妻、駿馬を以て崇に付けて曰く、

「事は洩れれば、當に此を以て自ら明らかにすべし。」

賀氏は夜顯に酒を飲ませて、酔わ令め、珪をして陰かに舊臣の長孫犍、元他、羅結と與に輕騎にて亡げ去ら使む。晨に向かい、賀氏は^{こときら}故に廄中の群馬に驚き（演技して）、顯をして起きて之を視さ使む。賀氏は哭して曰く、

「吾が子は適^{まさ}に此に在り、今皆な見えぬ、汝等は誰か之を殺せる邪？」

顯は故を以て急に追わず。珪は遂に賀蘭部に奔り、其の舅の賀訥に依り、訥は驚きて喜んで曰く、

「復國之後は、當に老臣を^{おも}念うべし！」

珪は笑つて曰く、

「誠に舅の言の如く、敢えて忘れざる也。」

顯は梁六眷が其の謀を洩らすを疑い、將に之を囚えんとす。穆崇は宣言して曰く、

「六眷は恩義を顧みず、顯を助けて逆を為し、我は其の妻と馬を掠め得たり、以て忿りを解くに足れり。」

顯は乃ち之を捨（捨て置く）てる。

賀氏の從弟の外朝大人の賀悦は所部を挙げて以て珪に奉る。顯は怒り、將に賀氏を殺さんとし、賀氏は亢泥の家に奔り、神車（北の遊牧民は定住せず、神を車に置く）の中に匿れること三日、亢泥は家を挙げて之が為に請い、乃ち免かるを得る。

故の南部大人の長孫嵩は所部七百餘家を帥いて顯に叛し、(6-276p) 將に五原（現・内蒙古自治区バヤンノール市五原県）に奔らんとす。時に拓跋寔君之子の渥は亦た衆を聚めて自立し、嵩は之に歸さんと欲す；烏渥は嵩に謂つて曰く、

「父之子に逆うは(寔君は什翼犍を殺すこと太元元年にあり)、從うに足らざる也。珪に歸すに如かず。」

嵩は之に従う。之れ久しく、劉顯の所部は亂有り、故の中部大人の庾和辰は賀氏を奉じて珪に奔る。

拓跋前身 **〔賀染干は瑤の母の賀氏の迫力に圧倒される〕** 賀訥の弟の染干は瑤が衆心を得るを以て、之を忌み、其の黨の侯引七突をして瑤を殺さしめんとす。代人の尉古真是之を知り、以て瑤に告げ、侯引七突は敢えて發せず。染干は古真の其の謀を洩らすを疑い、執りて而して之を訊(問)し、兩車軸(統は輪)を以て其の頭を夾み、一目を傷つけ、伏さず、乃ち之を免ず。染干は遂に兵を擧げて瑤を圍む。賀氏は出でて染干に謂って曰く、

「汝等は何くに於いて我を置き、而して吾が子を殺さんと欲する乎！」

染干は慚じて而して去る。

後秦 **〔苻丕の新体制〕** 九月、秦主の丕は張蚝を以て侍中、司空と為し、王永を侍中、都督中外諸軍事、車騎大將軍、尚書令と為し、王騰を中軍大將軍、司隸校尉と為し、苻沖を尚書左僕射と為し、西平王に封じる。又た左長史の楊輔を以て右僕射と為し、右長史の王亮を護軍將軍と為す。妃の楊氏を立てて皇后と為し、子の寧を皇太子と為し、壽を長樂王と為し、鏘を平原王と為し、懿を勃海王と為し、昶を濟北王と為す。

【呂光の後涼自立、乞伏氏の西秦自立】

後涼 **〔涼州刺史の梁熙は呂光の東に還るを阻む〕** 呂光は龜茲より還りて宜禾(甘肅省安肅道安西県、現・敦煌市瓜洲県安西)に至り、秦の涼州刺史の梁熙は境を閉じて之を拒まんと謀る。高昌太守の楊翰は熙に言つて曰く、

「呂光は新たに西域を破り、兵は強く氣は鋭なり、中原の喪亂を聞けば、必ず異圖有らん。河西の地は方萬里、帶甲は十萬、以て自ら保つに足る。若し光が流沙を出れば、其の勢いは敵する難し。高梧の谷口(高昌の西境にあり)は險阻之要なり、宜しく先ず之を守り而して其の水を奪うべし。彼(統、波×)は既に窮渴し、以て坐して制する可し。如し以て遠しと為せば、伊吾(ハミ、晉昌郡に属す県)の關も亦た拒む可き也。(敵は)此の二阨(隘路)を度れば、子房(張良)之策有りとも雖も、施す所無し矣！」

熙は聽かず。美水の令の韃為の張統は熙に謂って曰く、

「今關中は大いに亂れ、京師(まだ長安陥落の報は無し)の存亡は知る可からず。呂光之來たるや、其の志は測り難し、將軍は何を以てか之を拒(統は抗)まん？」

熙は曰く、

「之を憂えるも、未だ出る所を知らず。」

統は曰く、

「光の智略は人を過ぎ、今歸るを思ふ之士を擁して、戰勝之氣に乗りて、其の鋒は未だ當たるに易からざる也。將軍は世々大恩を受け、忠誠は夙に著わる、勳を王室に立てるは、宜しく今日に在り！行唐公の洛は、上(苻堅)之從弟にして、勇は一時に冠たり、將軍の計を為すに、奉じて盟主と為し以て衆望を収め、忠義を推し以て群豪を帥いるに若くは莫し、則ち光は至ると雖も、敢えて異心有らざらん也。其の精銳に資し、東に毛興(河州刺史)を兼ね、王統(秦州刺史)、楊璧(南秦州刺史)を連ね、四州之衆を合わせて、凶逆を掃い、王室を寧んぜれば、此れ桓、文之舉也。」

熙は又た聽かず、(6-277p) 洛(104 卷太元五年に苻洛を西海に移す)を西海に殺す。(小林惠子はこの苻洛が倭国の応神天皇になったと解く。「興亡古代史」苻洛は380年4月和龍を起ち中山で苻堅と戦い敗れ、西海に流された。行唐公ともいう。)

後涼 **〔呂光は涼州を平らげて自ら涼州刺史となる〕** 光は楊翰之謀を聞き、懼れ、敢えて進まず。杜進は曰く、

「**梁熙**は文雅は餘り有り、機鑿(明察、鑑識)は足らず、終に**翰**之謀を用いる能わず、憂うるに足らざる也。宜しく其の上下心を離すに及び、速かに進みて以て之を取るべし。」

光は之に従う。進みて高昌に至り、**楊翰**は郡を以て迎え降る。玉門に至り、**熙**は檄を移して**光**が命を「**擅**」にして師を還すを責め、子の**胤**を以て鷹揚將軍と為し、振威將軍の南安の**姚皓**、別駕の**衛翰**と與に衆五萬を帥いて**光**を酒泉に拒ましむ。敦煌太守の**姚靜**、晉昌太守の**李純**は郡を以て**光**に降る。**光**は檄を涼州に報じ、**熙**の難に赴くの志無く、歸國之衆を**遏**めるを責める。**彭晁**、**杜進**、**姜飛**を遣わして前鋒と為し、**胤**と安彌(甘肅省安肅道酒泉県、現・酒泉市肅州区)に戦い、大いに破りて之を擒とす。是に於いて四山の胡、夷は皆な**光**に附く。武威太守の**彭濟**は**熙**を執りて以て降り、**光**は之を殺す。**光**は姑臧に入り、自ら涼州刺史を領し(事実上の後涼自立)、**杜進**を表して武威太守と為し、自餘の將佐は、各々職位を受ける。涼州の郡縣は皆な**光**に降り、獨り酒泉太守の**宋皓**、西郡(漢は張掖の日勒・刪丹県を分けて西郡を置く、甘肅省甘肅道永昌県、現・金昌市永昌県)太守の**索泮**は城守りて下らず。**光**は攻めて而して之を執る、**泮**を讓めて曰く、

「吾は詔を受けて西域を平らげ、而して**梁熙**は我が歸路を絶つ、此れ朝廷之罪人なり、卿は何為れぞ之に附くや？」

泮は曰く、

「將軍は詔を受けて西域を平らげるも、詔を受けずして涼州を亂す、**梁公**は何の罪ありてか而して將軍は之を殺すや？**泮**は但だ力足らずして、君父之仇を報じる能わざるに苦しむ耳、豈に肯て逆氏の**彭濟**之為す所の如き乎！主は滅びて臣は死するは、固より其の常也。」

光は**泮**及び**皓**を殺す。

後涼 **[呂光の主簿の尉祐の反乱]** 主簿の**尉祐**は、奸佞にして傾險、**彭濟**と與に同じく**熙**を執り、**光**は之を寵信す。**祐**は譖りて名士の**姚皓**等十餘人を殺し、涼州人は是に由りて悦ばず。**光**は**祐**を以て金城太守と為し、**祐**は允吾(甘肅省蘭山道阜蘭県、現・蘭州市阜蘭県)に至り、襲いて其の城に據りて以て叛す。**姜飛**は撃ちて之を破り、**祐**は奔りて興城(允吾の西、白土の東)に據る。

西秦 **[西部鮮卑の乞伏氏は自立]** 乞伏國仁は自ら大都督、大將軍、單于を稱し、秦、河二州牧を領し、改元して建義とし、乙旃童泥を以て左相と為し、屋引出支を右相と為し、獨孤匹蹄を左輔と為し、武群勇士を右輔と為し、弟の**乾歸**を上將軍と為し、其の地を分けて武城等十二郡(武城・武陽・安固・武始・漢陽・天水・略陽・[強]川・甘松・匡明・白馬・苑川)を置き、勇士城(甘肅省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県)を築きて而して之に都す。

前秦 秦の尚書令の魏昌公の**纂**は關中より晉陽に奔る。秦主の**丕**は**纂**を拜して太尉とし、東海王に封じる。

西燕 **[高蓋は破れ、楊定は隴右に逃亡]** 冬、十月、西燕主の**冲**は尚書令の高蓋を遣わして衆五萬を帥いて後秦を伐たしめ、新平南に戦い、**蓋**は大いに敗れ、後秦に降る。初め、**蓋**は**楊定**を以て子と為し、**蓋**の敗れるに及び、**定**は亡げて隴右(甘肅省南部、蘭州より南の総称)に奔り、復た其の舊衆を収集す。(6-278p)

前秦 **[前秦苻丕の河北・隴右の勢力は、後秦を攻める]** 苻定、苻紹、苻謨、苻亮(四人とも燕に降るは前卷前年にあり)は秦主の**丕**の即位を聞き、皆な河北より遣使して謝罪す。中山太守の**王亮**は、本々新平の氏也、固く博陵を守り、秦の為に燕を拒む。十一月、**丕**は**亮**を以て平州刺史と為し、**定**を冀州牧と為し、**紹**を冀州都督と為し、**謨**を幽州牧と為し、**亮**を幽、平二州都督と為し、並(統は竝)びに郡公に進める。左將軍の**竇冲**は茲川(霸川)に據り、衆は數萬有り、秦州刺史の**王統**、河州刺史の**毛興**、益州刺史の**王廣**、南秦州刺史

の楊璧、衛將軍の楊定と與に皆な隴右より遣使して丕を邀え、共に後秦を撃つ。丕は定を以て雍州牧と為し、沖を梁州牧と為し、統に鎮西大將軍、興に車騎大將軍を加える。璧に征南大將軍を加えて、並（統は竝）びに開府儀同三司とし、廣に安西將軍を加え、皆な位を州牧に進める。

仇池 ■ 仇池に逃げた楊定は自立し、秦州刺史、隴西王を称す 楊定は尋いで徙りて歷城（祈山の南、現・甘肅省隴南市西和県）に治し、儲蓄を百頃（甘肅省渭川道成県、現・隴南市成県）に置き、自ら龍驤將軍、仇池公と稱し、遣使して來たりて稱籓す。詔して其の號する所に因りて之に假す。其の後又た天水、略陽之地を取り、自ら秦州刺史、隴西王と稱す。（仇池は時として自立する）

【後燕は高句麗の遼東、玄菟二郡を奪還】

▲ 後燕は清河の蔡匡を討伐 繹幕（県、清河郡に属す、山東省濟南道平原県、現・徳州市平原県）の人の蔡匡は城に據りて以て燕に叛し、燕の慕容麟、慕容隆は共に之を攻め。泰山太守の任泰は師を潜めて匡を救わんとし、匡の壘南八里に至り、燕人は乃ち之を覺る。諸將は匡の未だ下らず而して外敵の奄至するを以て、甚だ之を患う。隆は曰く、

「匡は外救を恃む、故に時に下らず。今泰之兵を計るに數千人に過ぎず、及ち其の未だ合せざるに、之を撃てば、泰は敗れ、匡は自ら降らん矣。」

乃ち匡を釋て泰を撃ち、大いに之を破り、斬首は千餘級。匡は遂に降り、燕王の垂は之を殺し、且つ其の壘を屠る。

▲ 高句麗 慕容農は龍城で兵糧を貯え、餘巖を降し、高句麗を討つ 慕容農は龍城に至り、士馬を休めて十餘日。諸將は皆な曰く、

「殿下之來たるや、道を取ることに甚だ速く、今此に至る。久しく留まりて進まずは、何ぞ也？」

農は曰く、

「吾は來たること速かなる者、餘巖が山（白狼山）を過ぎて鈔盜し、良民を侵擾せんことを恐れる耳。巖の才は人を逾えず、饑兒を誑誘して、鳥集して群を為し、綱紀は有るに非ず。吾は已に其の喉を扼し、久しくして將に離散せん、能く為す無し也。今は此の田は善く熟し、未だ收めず而して行けば、徒らに自ら耗損す。當に收め畢わるを俟ち、往きて則ち之を梟すべし、亦た旬日を出でざらん耳。」

之頃して、農は步騎三萬を將して令支に至る、巖の衆は震駭し、稍稍城を逾えて農に歸す。巖は計窮まり出でて降り、農は之を斬る。進みて高句麗（郝景の敗れるに、高句麗は二郡を取った）を撃ち、遼東、玄菟二郡を復す。還りて龍城に至り、上疏して陵廟（燕の慕容皝より以前の陵墓がある）を繕修するを請う。燕王の垂は農を以て使持節、都督幽、平二州、北狄諸軍事、幽州牧と為し、龍城に鎮ぜしむ。平州刺史の帶方王の佐を徙して平郭に鎮ぜしむ。農は是に於いて創めて法制を立て、事は寬簡に従い、刑獄を清くし、賦役を省き、農桑を勸課し、居民は富贍なり、四方の流民は前後して至る者は數萬口。是より先幽、冀の流民は多く高句麗に入り、農は驃騎司馬の范陽の龐淵を以て遼東太守と為し、之を招撫す。（6-279p）

【慕容麟は前秦殘党と戦う】

▲ 慕容麟は博陵の王亮を攻め滅ぼす 慕容麟は王亮を博陵（後漢により中山郡が分割されて博陵郡、現・衡水市周辺、158年後漢冀州、397北魏定州）に攻め、城中の糧は竭き矢は盡き、功曹の張猗は城を逾えて出で、衆を聚めて以て麟に應ず。亮は城に臨みて之を數めて曰く、

「卿は是れ秦の民なり、吾は是れ卿の君なり。卿は兵を起こして賊に應じ、自ら『義兵』と號す、何の名

實之相い違ふ也？古の人は忠臣を求めて必ず孝子之門に於いてす（二句は後漢書韋彪傳注に見える、孝經緯の文）、卿の母は城に在り、（卿は）棄てて而して顧みず、吾は何か有らん焉！今人は卿の一切之功を取るは則ちかなり矣、寧んぞ能く卿が不忠不孝之事を忘れん乎！^{おも}意わず中州は禮義之邦なるに、乃ち卿の如きの者有る也！」

十二月、麟は博陵を抜き、亮及び苻鑿を執りて、之を殺す。昌黎太守の宋敞（時に王永に従って壺關にあり）は烏桓、索頭之衆を帥いて亮を救わんとし、及ばず而して還る。秦主の丕は敞を以て平州刺史と為す。

▲【後燕は中山を都とする】燕王の垂は北に中山（直隸省保定道定県、現・定州市）に如き、諸將に謂って曰く、「樂浪王（慕容温の功は前に見える）は流散を招き、倉廩を實たし、外に軍糧を給し、内に宮室を營み、蕭何（漢の高祖が項羽と戦う間に蕭何は關中を鎮撫した功）の功（続により補充）と雖も何を以て之を加えん！」

丙申（23日）、垂は始めて都を中山に定める。

前秦秦の苻定は信都に據りて以て燕を拒み、燕王の垂は從弟の北地王の精を以て冀州刺史と為し、兵を將いて之を攻める。

●【拓跋珪は自立へ】拓跋珪の從曾祖の紇羅は其の弟の建及び諸部の大人と與に、共に賀訥に請い珪を推して主と為す。

烈宗孝武皇帝中之上太元十一年（丙戌，386年）

【拓跋珪が代王即位、慕容垂は皇帝即位】

●【拓跋珪は代王に即位】春，正月，戊申（6日）、拓跋珪（什翼犍の嫡孫の世子の寔の子、北魏道武帝）は大いに牛川（山西省雁門道左雲県、現・大同市左雲県とするが、「五胡十六国」では現・内蒙古自治区ウランチャブ市興和県）に會し、代王に即位し、改元して登國とす。長孫嵩を以て南部大人と為し、叔孫普洛を北部大人と為し、分けて其の衆を治めしむ。上谷の張亮を以て左長史と為し、許謙を右司馬と為し、廣寧王の建、代人の和跋（倭国の出身の可能性あり）、叔孫建、庾岳等を外朝大人と為し、奚牧を治民長と為し、皆な宿衛を掌り及び軍國の謀議に參ぜしむ。長孫道生、賀毘等は左右に侍從し、教命を出納す。王建は代王の什翼犍之女を娶る、岳は、和辰の弟、道生は、嵩之從子也。（庾和辰が拓跋珪の母の賀氏を奉じて以て珪に奔る事、長孫嵩が部衆を率いて珪に歸する事は前にあり）

▲燕王の垂（字は道明、慕容皝の第五子、成武帝）は皇帝に即位す。

後秦後秦王の萇は安定に如く。

西秦南安の秘宜は羌、胡五萬餘人を帥いて乞伏國仁を攻め、國仁は兵五千を將して逆撃し、大いに之を破る。宜は奔りて南安に還る。

■翟魏前身【翟遼は黎陽を乗っ取る】鮮于乞之翟真を殺す也（前年四月）、翟遼は黎陽（河南省河北道浚県、現・鶴壁市浚県）に奔り、黎陽太守の滕恬之は甚だ之を愛信す。恬之は畋獵を喜び、士卒を愛せず、遼は潜かに奸惠を施して以て衆（続、從x）心を取める。恬之は南に鹿鳴城（河南省河北道滑県、現・安陽市滑県）を攻め、遼は後ろに於いて閉門して之を拒む。恬之は東に鄆城（現・山東省荷沢市鄆城県）に奔り、(6-280p) 遼は追いて之を執り、遂に黎陽に據る。豫州刺史の朱序は將軍の秦膺、童斌を遣わして淮、泗の諸郡と共に之を討つ。

前秦【益州・隴右方面も混乱状態に】秦の益州牧の王廣（前年、成都より王統による）は隴右より兵を引いて河州牧の毛興を枹罕に攻め、興は建節將軍の衛平を遣わして其の宗人一千七百を帥いて夜廣を襲い、大いに之を破る。二月、秦州牧の王統は兵を遣わして廣を助けて興を攻め、興は城に嬰りて自ら守る。

▲燕は大赦し、改元して建興とし、公卿尚書百官を置き、宗廟、社稷を繕める。

西燕 **〔西燕主の沖は東に帰らず、殺されて段隨立つ〕** 西燕主の**沖**は長安に在るを楽しみ、且つ燕主の**垂**の強きを畏れ、敢えて東に帰らず（鮮卑・燕人は東帰を望む）、農を課し室を築き、久安之計を為し、鮮卑は鹹（続は咸）な之を怨む。左將軍の**韓延**は衆心の悦ばざるに因りて、**沖**を攻め、之を殺し、**沖**の將の**段隨**を立てて燕王と為し、改元して昌平とす。

南涼前身 初め、**張天錫**之南に奔る也（前卷太元八年にあり）、秦の長水校尉の**王穆**は其の世子の**大豫**を匿し、與に俱に河西に奔り、**秃髮思復鞬**（烏孤の父）に依り、**思復鞬**は魏安に送る。魏安の人の**焦松**、**齊肅**、**張濟**等は兵數千人を聚めて**大豫**を迎えて主と為し、**呂光**の昌松（甘肅省甘涼道古浪県、現・武威市古浪県）郡を攻めて、之を抜き、太守の**王世強**を執る。**光**は輔國將軍の**杜進**をして之を撃たせめ、**進**の兵は敗れ、**大豫**は進んで姑臧に逼る。**王穆**は諫めて曰く、

「**光**は糧豊かにして城固く、甲兵は精銳にして、之に逼るは利非ず。嶺西（西郡から張掖・酒泉・建康・晉昌まで）を席捲して、兵を礪ぎ粟を積み、然る後に東に向かいて之と争うに如かず、期年に及ばずして、**光**は取る可き也。」

大豫は従わず、自ら撫軍將軍、涼州牧と號し、改元して鳳凰とし、**王穆**を以て長史と為し、檄を郡縣に傳え、**穆**をして説きて嶺西の諸郡を諭さしむ、建康太守の**李暕**、祁連都尉の**嚴純**は皆な兵を起こして之に應じ、衆は三萬有り、楊塢（姑臧の西）に保據す。

●代王の**珪**は徙りて定襄之盛樂に居り、農に務め民を息め、國人は之を悦ぶ。

■三月、大赦す。

■**翟魏前身** **〔謝玄は北の乱を謝罪〕** 泰山太守の**張願**は郡を以て叛き、**翟遼**に降る。初め、**謝玄**は**朱序**をして梁國に屯せしめ、**玄**は自ら彭城に屯し、以て北は河上を固め、西は洛陽を援けんと欲す。朝議は征役の既に久しきを以て、**玄**をして戍を置きて而して還ら令めんと欲す。會々**翟遼**、**張願**は繼いで叛き、北方は騒動し、**玄**は謝罪し、職を解かんと乞い、詔して慰諭し、淮陰に還ら令む。

【慕容垂の母追尊の批判】

▲ **〔垂は母の蘭氏を文昭皇后と為す〕** 燕主の**垂**は母の**蘭氏**（慕容皝の側室）を追尊して**文昭皇后**と為し、**文明段后**（慕容皝の元妃）を遷して、**蘭后**を以て**太祖**に配享せんと欲し、百官に詔して之を議さしめ、皆な以て當に然るべしと為す。博士の**劉詳**、**董謚**は以て為す、

「**堯**の母は**帝嚳**の妃と為り、第三に位し、貴を以て姜原を陵（陵駕）さず。明聖之道は、（6-281P）至公を以て先と為す。**文昭后**には宜しく別に廟を立てるべし。」

垂は怒り、之に逼り、**詳**、**謚**は曰く、

「上の為さんと欲する所は、臣に問う無かれ。臣は經を案じ禮を奉じ、敢えて貳有らず。」

垂は乃ち復た諸儒に問わず、卒に**段后**を遷し、**蘭后**を以て之に代える。又た**景昭**（慕容皝は烈祖、景昭皇帝）の**可足渾后**（皝の元妃）が社稷を傾覆（102 卷太和四年にあり）するを以て、之を追廢す。**烈祖**の昭儀の**段氏**（皝の側室）を尊びて**景德皇后**と為し、**列祖**に配享す。

▲ **〔崔鴻の論評〕** 崔鴻は曰く：

「齊の**桓公**は諸侯に命じて、妾を發して妻と為す無かれと。夫之妻に於けるは、猶ほ妾を以て之を代える可からず、況んや子は而して其の母を易えん乎？《春秋》に稱する所の母は子を以て貴しと者、君母（嫡

母)は既に没し、妾母(実母にして父の妾)を以て小君(君主の母)と為すを得る也。宗廟に享祀するに至りては、則ち成風(魯の莊公の夫人は姜氏。成風は莊公の妾で僖公の母。姜氏は共、に通じて、閔公を弑して共仲を立てんとし、克たず、遂に邾に遷る。齊の桓公は之を殺す。僖公既に立ち、その喪を請い夫人の禮を以て葬る)は終に莊公に配するを得ざる也。君父之為す所は、臣子は必ず習いて而して之に效う、猶ほ形聲之影響に於けるがごとし也。竇(108卷太元二十一年にあり)之其の母を逼殺するは、垂の之が漸を為すに由る也。堯、舜之讓すら、猶ほ噲之禍い(2卷周の愼靚王五年にある)を為す、況んや禮に違えて而して私を縦にする者乎?昔文姜(文姜は桓公の夫人にして、齊の襄公に通じる。桓公は責め、夫人は襄公に告げ、遂に桓公を殺す。莊公二十一年春秋に『夫人姜氏薨ず』と書し、二十二年に『我が小君文姜を葬る』と書す。是れは之を廢せざるなり)は桓公に罪を得て、《春秋》は之を廢せず。可足渾氏は前朝に罪有ると謂えども、然れども小君(君主の母)之禮は成れり矣。垂は私憾(垂の妃段氏を譜殺し、また垂を譜してこれを遂いて秦に至らしむるをいう)を以て之を廢す、又た兄の妾之子無き者を立てるは、皆な禮に非ざる也。

●[代を巡る諸勢力の駆け引き]劉顯(は(代の迫るを恐れて)善無(山西省雁門道右玉県、現・朔州市右玉県)より南に馬邑(前漢雁門郡馬邑県、山西省雁門道馬邑県・朔県、現・朔州市朔城区)に走り、其の族人の奴真是所部を帥いて代に降る。奴真には兄の犍有り、先に賀蘭部に居り、奴真是代王の珪に言い、請いて犍を召いて而して所部を以て之に譲らんとす。珪は之を許す。犍は既に部を領し、弟の去斤を遣わして賀訥に金馬を遺る。賀染干は去斤に謂って曰く、

「我(続により補充)は汝の兄弟を待つこと厚し、汝は今部を領し、宜しく來たりて我に従うべし。」

去斤は之を許す。奴真是怒りて曰く、

「我は祖父以來、世々代の忠臣と為る、故に我は部を以て汝等に讓る、義を為さんと欲する也。今汝等は狀無く、乃ち國に叛かんを謀る、義は何くに於いてか在るや!」

遂に犍及び去斤を殺す。染干は之を聞き、兵を引いて奴真を攻め、奴真是代に奔る。珪は遣使して染干を責め、染干は乃ち止む。(これより代と賀蘭部に隙間あり)

西燕[段隨・顛・瑤と三皇帝殺され、永は忠を立て、長安を去る]西燕の左僕射の慕容恆、尚書の慕容永は段隨を襲い、之を殺す。宜都王の桓(続により補充)の子の顛を立てて燕王と為し、改元して建明とし、鮮卑の男女四十餘萬口を帥いて長安を去りて而して東す。恆の弟の護軍將軍の韜は、顛を誘い之(続により補充)を臨晉に殺(続により補充)す。恆は怒り、韜を捨てて去り、(6-282p)永(続、詠X)は武衛將軍の刁雲と與に衆を帥いて韜を攻める。韜は敗れ、恆の營に奔る。恆は西燕主の沖の子の瑤を立てて帝と為し、改元して建平とし、沖を諡して威皇帝と曰う。衆は皆な瑤を去りて永に奔り、永は瑤(望ではないか、東方選書「五胡十六國」)を執り、之を殺し、慕容泓の子の忠を立てて帝と為し、改元して建武とす。忠は永を以て太尉、守尚書令と為し、河東公に封じる。永は法を持すること寛平にして、鮮卑は之を安んじる。聞喜に至り、燕主の垂の已に尊號を稱するを聞き、敢えて進まず、燕熙城(山西省河東道[大名道は誤り]聞喜県、現・運城市聞喜県)を築きて而して之に居す。

後秦[長安は空白に]鮮卑は既に東し、長安は空虚なり。前の滎陽太守の高陵、趙毅等は杏城の盧水胡の郝奴を招き、戸四千を帥いて長安に入り、渭(続による、温X)北は皆な之に應ず、毅を以て丞相と為す。扶風の王麟(続による、毅X)は衆數千有り、馬崑(陝西省關中道興平県の西二十五里、現・咸陽市興平県)に保據し、奴は弟の多を遣わして之を攻める。夏、四月、後秦王の萇は安定より之を伐ち、麟(続による、渭X)は漢中に奔る。萇は多を執りて而して進み、奴は懼れ、降を請い、鎮北將軍、六谷(長安の南山にあり)大都督を拜す。

■癸巳(22日)、尚書僕射の陸納を以て左僕射と為し、譙王の恬を右僕射と為す。納は、玩(94卷成帝咸

和四年にあり) 之子也。

後秦 **〔枹罕の諸氏は毛興を殺す〕** 毛興は王廣を襲撃し、之を敗り、廣は秦州に奔る。隴西の鮮卑の**匹蘭**は廣を執りて後秦に送る。興は復た**王統**を上邽に攻めんと欲す。枹罕の諸氏(元々苻堅が毛興をして領させた者)は皆な兵事を厭苦し、乃ち共に興を殺し、**衛平**を推して河州刺史と為し、遣使して命を秦に請(続による)う。

【後燕・後涼・北魏・後秦の自立顕著】

▲ 燕主の**垂**は其の子の**農**を封じて遼西王と為し、**麟**は趙王と為し、**隆**を高陽王と為す。

● **〔北魏の成立〕** 代王の**珪**は改めて魏王と稱す。

後涼 **〔南涼前身〕** **〔呂光は張大豫撃破〕** 大豫は楊塢より進みて姑臧の城西に屯し、**王穆**及び**秃髮思復鞬**の子の**奚於**(続は子)は衆三萬を帥いて城南に屯す。**呂光**は出撃し、大いに之を破り、**奚於**等二萬餘級を斬る。

前秦 秦は大赦し、**衛平**を以て撫軍將軍、河州刺史と為し(現状の追認)、**呂光**を車騎大將軍、涼州牧と為す。使者は皆な後秦に没し、達す能わず。(苻丕は晉陽にあり、後秦に隔てられて、達する道無し)

▲ **〔後燕の国家体制整備へ〕** 燕主の**垂**は范陽王の**徳**を以て尚書令と為し、太原王の**楷**を左僕射と為し、樂浪王の**温**(中山を守り、宮室を建て都邑を営むの功有り)を司隸校尉と為す。

後秦 **〔姚萇は長安にて皇帝即位〕** 後秦王の**萇**(字は景茂、姚弋仲の第二十四子、武昭帝)は長安に於いて**皇帝**に即位し、大赦し、改元して建初とし、國號を大秦とす。其の父の**弋仲**を追尊して**景元皇帝**と為し、妻の**蛇氏**を立てて**皇后**と為し、子の**興**を**皇太子**と為す。百官を置く。**萇**は群臣と宴し、酒**酣**にして、言つて曰く、「諸卿は皆な**朕**と與に秦朝に北面し、今忽ち君臣と為る、恥ずる無きを得る乎！」

趙遷は曰く、

「天は**陛下**を以て子と為すを恥じず、臣等は何ぞ臣と為るを恥じるや！」

萇は大いに笑う。(6-283p)

● **〔草創期の北魏は反常ならず〕** 魏王の**珪**は東に**陵石**(盛樂の東、山西省雁門道平魯県、現・朔州市平魯区)に如き、護佛侯の部帥の**侯辰**、乙佛の部帥の**代題**は皆な叛きて走る。諸將は之を追わんと請い、**珪**は曰く、

「**侯辰**等は累世服役し、罪有り、**且**く當に之を忍ぶべし。方に今國家は草創にして、人情は未だ壹ならず、愚かな者は固より宜しく前卻(続は却、一前一却、反常ならず)すべし、追うに足らざる也！」

■ **〔東晉の弘農進出〕** **六月**、庚寅(20日)、前の輔國將軍の**楊亮**を以て雍州(襄陽に治す、洛陽も担当)刺史と為し、**衛山陵**に鎮せしむ。荊州刺史の**桓石民**は將軍の**晏謙**を遣わして弘農を撃たしめ、之を下す。初めて湖(弘農、河南省河洛道閔郷県、現・三門峽市靈宝市)、**陝**(河南省河洛道上陝県、現・三門峽市陝州区)二戍を置く。

西燕 **〔西燕は慕容永が立つ〕** 西燕の**刁雲**等は西燕主の**忠**を殺し、**慕容永**を推して使持節、大都督中外諸軍事、大將軍、大單于、雍、秦、梁、涼四州牧と為し、尚書事を録さしめ、河東王とし、燕(後燕)に稱藩す。(西燕建国後2年間で6人の皇帝が立ち、ようやく慕容永が8年維持する)

▲ **〔後燕は苻氏一族を再び組み込む〕** 燕主の**垂**は太原王の**楷**、趙王の**麟**、陳留王の**紹**、章武王の**宙**を遣わして秦の**苻定**、**苻紹**、**苻謨**、**苻亮**等を攻めしむ。**楷**は先ず書を以て之に與え、為に禍福を陳べ、**定**等は皆な降る。**垂**は**定**等を封じて侯と為し、曰く、

「以て秦主之徳に酬いん。」

前秦 **〔苻丕は四方に檄して後秦・後燕を討たんとす〕** 秦主の**丕**は都督中外諸軍事、司徒、録尚書事の**王永**を以て左丞相、太尉と為し、東海王の**纂**を大司馬と為し、司空の**張蛇**を太尉と為し、尚書令の咸陽の**徐義**を司空と為し、司隸校尉の**王騰**を驃騎大將軍、儀同三司と為す。**永**は檄を四方の公侯、牧守、壘主、民

豪に傳え、共に**姚萇**、**慕容垂**を討たんとし、各々をして所統を帥いて、孟冬の上旬を以て大駕に臨晉に會せ令む。是に於いて天水の**姜延**、馮翊の**寇明**、河東王の**昭**、新平の**張晏**、京兆の**杜敏**、扶風の**馬朗**、建忠將軍（苻氏の創設する官）、高平（県名）の牧官都尉の扶風の**王敏**等は鹹（続は咸）な檄を承けて兵を起こして、各々衆數萬有り、遣使して秦に詣り、**丕**は皆な就きて將軍、郡守に拜し、列侯に封ず。冠軍將軍の**鄧景**は衆五千を擁して彭池（長安の西の彭地なるべし）に據り、**竇冲**（続は衝）と首尾を為し、以て後秦を撃つ。**丕**は**景**を以て京兆尹と為す。**景**は、**羌**之子也。

後秦後秦主の**萇**は安定の五千餘戸を長安に徙す。

後秦**[姚萇は自ら安定を討つ]**秋，七月，秦の平涼太守の**金熙**、安定都尉の**沒弈干**は後秦の左將軍の**姚方成**と孫丘谷（安定にあるべし）に於いて戦い、**方成**の兵は敗れる。後秦主の**萇**は其の弟の征虜將軍の**緒**を以て司隸校尉と為し、長安に鎮ぜしむ。自ら將して安定に至り**熙**等を撃ち、大いに之を破る。**金熙**は本は東胡（秦は遼碭に據る鮮卑を呼ぶ）之種なり。**沒弈干**は、鮮卑の多蘭部の帥也。

【前秦の符登の登場】

前秦**[枹罕の諸氏は苻登を盟主に前秦に就く]**枹罕の諸氏は**衛平**が衰老して、成功を為（続は與）すに難きを以て、之を廢さんと議す、而れども其の宗強を憚りて、累日決せず。氏の**啖青**は諸將に謂って曰く、「大事は宜しく時に定むべし、然らずんば、變を生じん。（6-284p）諸君は但だ**衛公**に請いて會を為し、我の為す所を觀るべし。」

會々七夕に大いに宴し、**青**は劍を抽りて而して前みて曰く、

「今天下は大亂し、吾が**曹**^{ともがら}休戚は之を同じくす、賢主に非ざれば以て大事を濟す可からず。**衛公**は老い、宜しく初服（**衛平**はもと毛興の武將）に返り以て賢路を避くべし。狄道の長の**苻登**（苻氏一族として初登場）は、王室の疏屬と雖も、志略は雄明にして、共に之を立てるを請い、以て（王永の檄を受けて秦主苻丕の）大駕に赴かん。諸君の同ぜざる者有れば、即ち異議を下せ！」

乃ち劍を奮いて袂を攘げ、將に己に異なる者を斬らんとす。衆は皆な之に従い、敢えて仰ぎ視る莫し。是に於いて**登**を推して使持節、都督隴右諸軍事、撫軍大將軍、雍、河二州牧、略陽公と為し、衆五萬を帥いて、東に隴に下り、南安（後漢末～隋初の郡、甘肅省蘭山道隴西県、現・定西市隴西県南安鎮）を攻め、之を抜き、使いを馳せて命を秦に請う。**登**は、秦主の**丕**の族子也。

西秦**秘宜**は**莫侯悌眷**と與に其の衆三萬餘戸を帥いて乞伏國仁に降り、**國仁**は**宜**を拜して東秦州刺史、**悌眷**を梁州刺史とす。

●巳酉（10日）、魏王の**珪**は（陵石より）盛樂に還り、**代題**は復た部落を以て來降し、十餘日、又た**劉顯**に奔る。**珪**は其の孫の**倍斥**をして代わりて其の衆を領せ使む。**劉顯**の弟の**肺泥**は衆を帥いて魏に降る。

▲**[慕容垂の遠征]**八月，燕主の**垂**は太子の**寶**を留めて中山を守らしめ、趙王の**麟**を以て尚書右僕射と為し、留台を録せしむ。庚午（1日）、自ら范陽王の**德**等を帥いて南して地を略し、高陽王の**隆**をして東に平原へ徇ら使む。丁零の**鮮于乞**は曲陽の西山（現・保定市曲陽県）を保ち、**垂**が南伐すと聞き、出でて望都（直隸省保定道望都県、現・河北省保定市望都県）に營し、居民を剽掠す。趙王の**麟**は自ら出でて之を討ち、諸將は皆な曰く、

「殿下は鎮を虚しくして遠征し、萬に一も功無くして而して返れば、威の重しを虧損（毀損）せん、諸將を遣わして之を討つに如かず。」

麟は曰く、

「乞は大駕の外に在るを聞き、畏忌する所無く、必ず備えを設けず、一舉に取る可し、憂うるに足らざる也。」

乃ち聲言して魯口（直隸省保定道饒陽県、現・衡水市饒陽県）に至り、夜、回りて乞に趣き、明くる比おい、其の營に至る。掩撃し、之を擒とす。

後魏前身 翟遼は譙を寇し、朱序は撃ちて之を走らす。

前秦 [苻丕は苻登と連携] 秦主の丕は苻登を以て征西大將軍、開府儀同三司、南安王、持節、州牧、都督と為し、皆な其の稱する所に因りて而して之を授ける。又た徐義を以て右丞相と為す。王騰を留めて晉陽を守らしめ、右僕射の楊輔をして壺關に戍し、衆四萬を帥いて、進みて平陽に屯せしむ。

後秦 [姚碩徳は姚萇に会して王統を攻める] 初め、後秦主の萇之弟の碩徳は所部羌を統べて隴上に居り、萇が兵を起すを聞き、自ら征西將軍と稱し、衆を冀城に聚め以て之に應ず。兄の孫の詳を以て安遠將軍と為し、隴城に據らしめ、從孫の訓を安西將軍と為し、南安之赤亭（元々諸姚は赤亭羌）に據らしめ、秦の秦州刺史の王統と相持つ。萇は安定より兵を引いて碩徳に會して統を攻め、天水の屠各、略陽の羌胡の之に應じる者は一（統は二）萬餘戸、（6-285p）秦の略陽太守の王皮は之に降る。

● [魏主は内乱を恐れ、安同を派遣して後燕に救いを求める] 初め、秦は代を滅ぼし（104 卷太元元年）、代王の什翼犍の少子の窟咄を長安に遷し、慕容永に從いて東に徙る。永は窟咄を以て新興太守と為す。劉顯は其の弟の亢泥を遣わして窟咄を迎え、兵を以て之に隨い、魏の南境に逼らしめ、諸部は騷動す。魏王の珪の左右の於（統は于）桓等は部人と與に珪を執りて以て窟咄に應じんと謀り、幢將（魏の官、禁中親衛隊）の代人の莫題等も亦た潜かに窟咄と交通す。桓の舅の穆崇は之を告げ、珪は桓等五人を誅し、莫題等七姓は悉く原して問わず。珪は内難を懼れ、北に阻（統は陰）山を逾え、復た賀蘭部に依り、外朝大人の遼東の安同（安息パルティア出身の安一族）を遣わして燕に救いを求めしめ、燕主の垂は趙王の麟を遣わして之を救う。

後秦 九月、王統は秦州を以て後秦に降る。後秦主の萇は姚碩徳を以て使持節、都督隴右諸軍事、秦州刺史と為し、上邽に鎮せしむ。

後涼 [呂光は苻堅の死を知る] 呂光は秦王の堅の凶問を得て、軍を挙げて縞素（白い喪服）し、諡して文昭皇帝と曰う。冬、十月、大赦し、改元して大安（晉書載記には太安）とす。

西燕 **前秦** [慕容永は苻丕を破り、苻丕は東晋の馮該に洛陽で討たれる] 西燕の慕容永は遣使して秦主の丕に詣り、道を假りて東に歸るを求める。丕は許さず、永と襄陵（山西省河東道襄陵県、現・臨汾市襄汾県）に戦い、秦兵は大いに敗れ、左丞相の王永、衛大將軍の俱石子は皆な死す。初め、東海王の纂（去年丕に走る）は長安より來たり、麾下の壯士は三千餘人、丕は之を忌み、（丕は）既に敗れ、纂の殺す所と為るを懼れ、騎數千を帥いて南に東垣（河南省河洛道洛陽県、現・洛陽市洛龍区）に奔り、洛陽を襲わんと謀る。■揚威將軍の馮該は陝より之を邀撃し、丕を殺し、其の太子の寧、長樂王の壽を執り建康に送る。詔して赦して誅さず、以て苻宏（前年降り、江州に居らす）に付ける。纂は其の弟の尚書の永平侯の師奴と與に秦衆數萬を帥いて走りて杏城に據り、其の餘の王公百官は皆な永に没す。

西燕 [慕容永は皇帝に即位] 永は遂に進みて長子に據り、皇帝に即位し、改元して中興とす。將に秦の後の楊氏を以て上夫人と為し、楊氏は劍を引きて永を刺し、永の殺す所と為る。

■甲申（16日）、海西公の奔（年45）は吳に薨じる。

▲燕の寺人の吳深は清河に據りて反し、燕主の垂は之を攻め、克たず。

後秦 後秦主の**苻**は（上邽より）安定に還る。

前秦 **後秦** **〔苻登と姚萇は胡奴阜に激突、姚萇は弓が中たる〕** 秦の南安王の**統**は既に南安に克ち、夷、夏の之に歸する者は三萬餘戸、遂に進みて**姚碩德**を秦州に攻め、後秦主の**苻**は自ら往きて之を救う。**登**は**萇**と胡奴阜（上邽の西）に戦い、大いに之を破り、斬首は二萬餘級、將軍の**啖青**は**萇**を射ち、之に中たる。**萇**の創きずは重く、走りて上邽を保ち、**姚碩德**は之に代わりて衆を統べる。

● **〔魏主は燕の慕容麟の支援で拓跋窟咄を破る〕** 燕の趙王の**麟**の軍は未だ魏に至らず、**拓跋窟咄**はようや稍く前みて魏王の**珪**に逼り、**賀染干**は魏の北部を侵して以て之に應じる。魏の衆は驚擾し、北部大人の**叔孫普洛**は亡げて**劉衛辰**に奔る。**麟**は之を聞き、にわか遽に**安同等**を遣わして歸らしむ。魏人は燕軍の近くに在るを知り、衆心は少しく安ず。**窟咄**は進みて高柳（山西省雁門道陽高県、現・大同市陽高県）に屯し、**珪**は兵を引いて**麟**と會して之を撃ち、**窟咄**は大敗し、**劉衛辰**に奔り、**衛辰**は之を殺す。（6-286p）**珪**は悉く其の衆を収めて、代人の**庫狄干**を以て北部大人と為す。**麟**は兵を引いて中山に還る。

後秦 **西燕** ▲**劉衛辰**は朔方に居り、土馬は甚だ盛んなり。後秦主の**苻**は**衛辰**を以て大將軍、大單于、河西王、幽州牧と為し、西燕主の**永**は**衛辰**を以て大將軍、朔州牧と為す。

【苻登は前秦皇帝即位】

前秦 **〔苻登は隴東にて即位〕** **十一月**、秦の尚書の**寇遺**は勃海王の**懿**、濟北王の**昶**を奉じ杏城より南安に奔り、南安王の**登**は喪を發して服を行い、**秦主**の**丕**に諡して**哀平皇帝**と曰う。**登**は**懿**を立てて主と為さんと議し、衆は曰く、

「**勃海王**は先帝之子と雖も、然れども年は幼沖に在り、未だ難多きに堪えず。今三虜（後秦・後燕・西燕）は窺視（統は覬覦）し、宜しく長君を立て、**大王**に非ざれば不可なり。」

登（字は文高、苻堅の族孫、高帝）は乃ち隴東に壇を為して、**皇帝**に即位し、大赦し、改元して太初とし、大いに百官を置く。

西燕 **〔慕容永は慕容儁・慕容垂の一族を誅殺〕** **慕容柔**、**慕容盛**及**盛**の弟の**會**は皆な長子に在り（太元元年慕容柔らは長安より脱して慕容冲に奔り、冲死して永に従って長子に移る）、**盛**は**柔**、**會**に謂って曰く、

「**主上**（慕容垂）は已に幽、冀を中興し、東西は未だ壹ならず、吾が屬は嫌疑之地に居り、智ち為るも愚ぐ為るも、皆な將に免れず。時を以て東に歸るに若かず、坐して魚肉とせらるるを待つを為す無き也。」

遂に相い與に亡げて燕に歸す。後歳餘にして、西燕主の**永**は悉く燕主の**儁**（族による、俊×）及び燕主の**垂**之子孫を誅し、男女は遺る無し。

後涼 **張大豫**は西郡より臨洮に入り、民五千餘戸を掠めて、俱城（甘肅省蘭山道岷県、現・隴南市宕昌県）に保據す。

後涼 **十二月**、**呂光**は自ら使持節、侍中、中外大都督、督隴右、河西諸軍事、大將軍、涼州牧、酒泉公と稱す。

前秦 **〔苻登の方圓の大陣は盤石〕** 秦主の**登**は**世祖**（苻堅）の神主を軍中に立て、載せるに輜輶（四面に屏ある車、輜、ほろぐるま）を以てし、黃旗青蓋を建て、虎賁（親衛隊）三百人を以て之を衛り、凡そ為さんと欲する所は、必ず主に啟して而る後に行う。兵五萬を引いて、東に後秦を撃ち、將士は皆な鉞、鎧に刻して「死」

「休」字（必ず死して休まんの意）を為る。戦う毎に劍槊を以て方圓の大陣を為り、厚薄有るを知れば、中より分配す、故に人は自ら戦いを為し、向かう所前無し。

前秦 **〔苻堅を改葬〕** 初め、長安之將に敗れんとする也（苻堅が慕容冲に攻められた時）、中壘將軍の**徐嵩**、屯騎校尉の**胡空**は各々衆五千を聚め、壘を結びて自ら固める。既に而して後秦の官爵を受ける。後秦主の**苻**は王

禮を以て秦主の堅を二壘之間に葬る。登の至るに及びて、嵩、空は衆を以て之に降る。登は嵩を雍州刺史に、空を京兆尹に拜し、堅を改葬して天子之禮を以てす。

▲■ [後燕は吳深を討伐、山東に進む] 乙酉（18日）、燕主の垂は吳深（時に清河にて反す）の壘を攻め、之を抜き、深は單馬にして走る。垂は進みて聊城（平原県に属す。山東省東臨道聊城県、現・聊城市東昌府区）之逢關陂に屯す。初め、燕の太子の洗馬の温詳は來奔（資治通鑑は東晋を正統とするが故に、來奔とは東晋に降ること）し、以て濟北太守と為し、東阿（山東省東臨道陽穀県の東北、現・聊城市陽穀県）に屯せしむ。燕主の垂は范陽の王徳、高陽王の隆を遣わして之を攻め、詳は從弟の攀を遣わして河の南岸を守らしめ、子の楷をして碣磔を守らしめて以て之を拒む。（6-287p）

▲●燕主の垂は魏王の珪を以て西單于と為し、上谷王に封ぜしむ、珪は受けず。（拓跋珪の志は小ならず）

令和2年10月17日 完訳開始 11325文字

令和2年10月21日 完訳終了 23179文字

令和3年12月18日 書下し終了 24354文字